2020 年 03 月 11 日　デイリー版 3 面
物流 / 港運

【企業 NOW】

昭和陸運。M&A で業容拡大、国際物流も

広島県福山市にある本社 (上)、昭和陸運代表取締役社長・荒木栄作氏 (下)

広島県福山市に本社を置く総合物流企業の昭和陸運。運送や倉庫、通関など幅広く物流サービスを提供するほか、グループ会社がアパレルや貿易、不動産、映像など多様な事業を展開。福山でもユニークな企業グループとして知られている。2018 年 11 月に完成した新社屋は、白を基調としたモダンな外観デザイン。またオフィスを含めた事務所内にはジャズを流すなど、良い意味でも物流企業らしからぬ雰囲気がある。「人材を集めるには、これだけ尖（とが）ったことをやらないと」と昭和陸運の荒木栄作社長は語る。

昭和陸運は 1954 年、荒木社長の父親が創業した。トラックを複数台持つ運送会社だった同社に荒木社長が入社したのは 24 歳の時。当時は社員 10 人、トラック 10 台ほどの規模で、仕事も実荷主はなく運送会社からの下請け業務が中心だった。売上高は 1 億円ほどあったというが、「ほぼ債務超過寸前」（荒木代表）など、会社存続すら危ぶまれた状況だったという。

荒木氏が経営を引き継いでからは、自らハンドルを握って運送に従事しながら業務にまい進。少しずつ仕事を増やしながら収益を拡大していった。当初はトラックによる運送一本だったが、倉庫なども組み合わせてサービスを提供するほか、地道な小口貨物の継続集荷などをすることで徐々に売り上げを増やし、総合物流企業としての基盤を整えていった。福山市内には本社倉庫を含めて 8 カ所ある物流センターをフル活用することで、顧客ニーズをしっかりつかんでいる。

現在、昭和陸運の売り上げ規模は約 20 億円。このほか多様なグループ企業群を含めた連結売上高は約 55 億円となる。こうしたグループ企業はもともと、「事業継承者がいない会社から依頼を受けて、経営を引き受けてきたのがきっかけ」（荒木社長）だったという。それが一つ成功するとまた話しが金融機関などから持ちかけられ、これまで M&A（合併・買収）を行った会社は 8 社に上り、いずれも経営改善に成功している。

M&A に際して荒木社長は、案件が持ち込まれたら 2 カ月ほどで買収の成否を決めるなどスピード感を強く意識する。そして買収したら積極的にその経営に関わり、他人に任せる場合にも自らが信頼すべき人間に委ねる。

こうして傘下に収めたグループ企業の事業戦略や取りまとめは SR ホールディングスを設立。同社が司令塔機能を担っている。それでもグループの中核は、祖業の運送業から発展した昭和陸運となる。

その昭和陸運が国際物流に参入したのは 2009 年のこと。国際部門の陣容は 4 人ほどだが、フォワーディングや通関、保管まで顧客のニーズに応えてきめ細かなサービスを売りにする。固定顧客がいない中での新規参入は厳しかったが、地道な努力で少しずつ顧客を開拓。いまでは昭和陸運の売上高の約 1 割は国際物流が占めるまでに成長した。

国際物流では後発組である昭和陸運にとっての強みは、熟練した通関士を擁していること。単に業務上必要な資格を持っている通関士だけでなく、業務を熟知しているので顧客にルート変更など提案もできるのが強みとなる。また自社のアセットを活用して保管（保税蔵置場あり）や配送などもできることも大きなアピールポイントという。

昨年 12 月には既存企業を買収する形で千葉県成田市に成田営業所を開設するなど、関東にも拠点網を広げている。「このままではじり貧なので、異業種を含めて積極的に拡大していきたい」と語る荒木社長。今後も物流を核としつつ、積極的に業容拡大を目指していく。

【データ】

資本金 =1000 万円

本　社 = 広島県福山市引野町 4-1-8

電　話 =084・941・8150

代表取締役＝荒木栄作